

## 立高と豊かな人生

こたか たける  
**小鷹 長氏 (高校25期)**

1973年3月 立川高校卒業  
1981年4月 東京大学理学部地学科・大学院を修了し、日本鉱業入社。  
→ ジャパンエナジー→JX石油開発と社名は変わったものの、一貫して石油地質技師として働く。中東アブダビ・豪州ブリスベンにそれぞれ3年間単身赴任。出張は世界中の僻地へ。  
2018年6月 中東石油鉱区契約更新の交渉をまとめ上げ、退職。  
現在、猫・孫に囲まれ、土いじりをしながら、地元国立周辺で活動中。



人生も3分の2を過ぎ、総括をするタイミングとなってきました。これを読むであろう現役立高生・現役社会人の皆さんのために、「私の人生に立高がどのような影響を及ぼし、『豊かな人生』にしてくれているか」をしるし、人生の参考としていただければと思います。

まず、人生を学習期、職業期、定年後の3つに分けます。



パプアニューギニア標高1000mの山岳地帯での試掘作業

### ■学習期: (20台前半までの約20年間、能力習得の時期)

立高には、勉学(学問)への興味を植えつけてくれた先生方がいました;英語、化学、地学=大陸移動説。様々な行事体験があり、興味のあるもの・熱中できるものを見つける多種多様な機会がありました;3年で男声優勝した合唱祭、立高祭、運動会、キャンパス、ファイアーストーム。また、友人形成(同期生、部活同期)、バドミントン部活(体力、一生モノの運動習慣)などもあります。

大学では、地球科学、生物への興味から、理学部地学科、大学院古生物学教室へ進学し、ミジンコ化石の進化を研究しました。就職は、海外へ行けることを優先しました。

### ■職業期: (60台前半までの約40年間、習得した能力を仕事で発揮する時期)

地質技術者として世界各地で石油・天然ガスを探し、エネルギー資源として開発し持ち込む仕事に従事しました。アブダビの原油、パプアニューギニアの液化天然ガスLNGなどです。日本経済に不可欠なエネルギー資源を確保するという大目的、人跡まれな地域での過酷な活動、事業規模の巨大さ、事業成功の博打性など、他の職業ではなかなかできない貴重な体験をしました。しかし最近では、炭化水素資源は温室効果ガスの元凶とされ、産業分野としての将来性SDGが見えにくくなっているのが残念ではあります。



中国タリム盆地の地質調査(左端に3台の車)

### ■定年後: (30+α年間、趣味、本当にやりたかったことを自分のためにやる時期)

農業にあこがれ(野菜)、職人にあこがれ(庭師、家庭大工、自転車修理)、やりたいことがたくさんある中、根っこは「自分の家は自分で維持管理したい」ということで、自宅・実家のメンテナンスを行いながら、地域の緑保全のボランティア活動に参加しています。趣味として、生涯バドミントン、山歩き、高校同期での合唱が、今現在の楽しみです。



### ■人生のコツ: 振り返ってみて、豊かな人生のコツは;

- 長い職業期を有意義に過ごせるように、自分の興味と職業を近接させる。
- 長い定年後を楽しく過ごせるように、幅広い興味と、人脈を持つ。
- 全てのステージにおいて自律的な人生を送れるように、運動習慣を持ち、健康的な身体と精神を持つ。

これらすべてのことに、立高は貢献してくれています。ありがとう立川高校。